

○ 概要

重要インフラサービス障害の深刻度や当該障害に関する情報の重要度に応じて影響範囲や対処行動等が異なってくることも踏まえ、関係主体間で認識の共有を図り、迅速な対応要否等の判断に資するため、下表のとおり、重要インフラサービス障害に係る深刻度の判断基準の例を設け、具体化に向けた検討を進める。(第4次行動計画案別添抜粋)

○ 目的

- ①可視化された深刻度により、発生した事象について関係主体間で共通の理解を助ける(客観性、国際的整合性に留意)
- ②深刻度レベルを政府の対応を判断する基準とする
- ③事象に関する情報共有の体制や方法の基準とする

表1 重要インフラサービス障害に係る深刻度判断基準(例)
(第4次行動計画案別添抜粋)

深刻度	定義
レベル5 (危機)	複数の重要インフラサービスに著しい影響を与えるおそれ切迫している事象
レベル4 (重大)	重要インフラサービスに著しい影響を与えるおそれが高い事象
レベル3 (高)	重要インフラサービスに一定の影響を与えるおそれが高い事象
レベル2 (中)	重要インフラサービスに影響を与えるおそれがある事象
レベル1 (低)	重要インフラサービスに影響を与えるおそれが小さい事象



表2 検討のためのたたき台

深刻度	人命・サービスへの影響	システムへの影響	
		OT	IT
レベル5			
レベル4			
レベル3			
レベル2			
レベル1			
レベル0			

米国のサイバーインシデント深刻度判断基準 (Cyber Incident severity schema)

- ✓ 2016年7月、米国において、大統領政策令(PPD 41)発出に合わせ、サイバーインシデント深刻度判断基準が公表された。
- ✓ サイバーインシデントの深刻度を測る米国連邦政府共通の枠組みとして構築。
- ✓ レベル3以上を重大サイバーインシデントとし、大統領政策令で定める対応の対象としている。

	General Definition
Level 5 Emergency (Black)	Poses an imminent threat to the provision of wide-scale critical infrastructure services, national gov't stability, or to the lives of U.S. persons.
Level 4 Severe (Red)	Likely to result in a significant impact to public health or safety, national security, economic security, foreign relations, or civil liberties.
Level 3 High (Orange)	Likely to result in a demonstrable impact to public health or safety, national security, economic security, foreign relations, civil liberties, or public confidence.
Level 2 Medium (Yellow)	May impact public health or safety, national security, economic security, foreign relations, civil liberties, or public confidence.
Level 1 Low (Green)	Unlikely to impact public health or safety, national security, economic security, foreign relations, civil liberties, or public confidence.
Level 0 Baseline (White)	Unsubstantiated or inconsequential event.

	Observed Actions	Intended Consequence ¹
Effect		Cause physical consequence
Presence		Damage computer and networking hardware
		Corrupt or destroy data
Engagement		Deny availability to a key system or service
		Steal sensitive information
Preparation		Commit a financial crime
		Nuisance DoS or defacement

国際原子力・放射線事象評価尺度

(INES: The International Nuclear and Radiological Event Scale)

- ✓ 放射線源に関する事象の安全重要度を一貫した表現で公衆に速やかに伝達するために使用される評価尺度
- ✓ 7つのレベルに分類。レベル4~7は「事故」、レベル1~3は「異常な事象」と呼ぶ。安全上重要でない事象は、評価尺度未満/レベル0に分類。
- ✓ 3つの異なった分野に関する影響の観点から検討。
 - ①人と環境への影響
 - ②施設における放射線バリアと管理への影響
 - ③深層防護への影響
- ✓ 事象の評価は、3つの各々の検討結果から、最も高いレベルのものとなる

INES レベル	人と環境	施設における放射線バリアと管理	深層防護
深刻な事故 レベル 7	・計画された広範な対策の実施を必要とするような、広範囲の健康および環境への影響を伴う放射性物質の大規模な放出。		
大事故 レベル 6	・計画された対策の実施を必要とする可能性が高い放射性物質の相当量の放出。		
広範囲な影響を伴う事故 レベル 5	・計画された対策の一部の実施を必要とする可能性が高い放射性物質の限定的な放出。 ・放射線による数名の死亡。	・炉心の重大な損傷。 ・高い確率で公衆が著しい被ばくを受ける可能性のある施設内の放射性物質の大量放出。これは、大規模臨界事故または火災から生じる可能性がある。	
局所的な影響を伴う事故 レベル 4	・地元で食物管理以外の計画された対策を実施することになりそうもない軽微な放射性物質の放出。 ・放射線による少なくとも1名の死亡。	・炉心インベントリーの0.1%を超える放出につながる燃料の溶融または燃料の損傷。 ・高い確率で公衆が著しい大規模被ばくを受ける可能性のある相当量の放射性物質の放出。	
重大な異常事象 レベル 3	・法令による年間限度の10倍を超える作業員の被ばく。 ・放射線による非致命的な確定的健康影響(例えば、やけど)。	・運転区域内での1 Sv/時を超える被ばく線量率。 ・公衆が著しい被ばくを受ける可能性は低い設計で予想していない区域での重大な汚染。	・安全設備が残されていない原子力発電所における事故寸前の状態。 ・高放射能密封線源の紛失または盗難。 ・適切な取扱い手順を伴わない高放射能密封線源の誤配。
異常事象 レベル 2	・10 mSv を超える公衆の被ばく。 ・法令による年間限度を超える作業員の被ばく。	・50 mSv/時 を超える運転区域内の放射線レベル。 ・設計で予想していない施設内の区域での相当量の汚染。	・実際の影響を伴わない安全設備の重大な欠陥。 ・安全設備が健全な状態での身元不明の高放射能密封線源、装置、または、輸送パッケージの発見。 ・高放射能密封線源の不適切な梱包。
逸脱 レベル 1			・法令による限度を超えた公衆の過大被ばく。 ・十分な安全防護層が残ったままの状態での安全機器の軽微な問題。 ・低放射能の線源、装置または輸送パッケージの紛失または盗難。

安全上重要でない(評価尺度未満/レベル0)